

むすび+

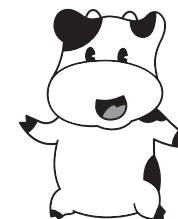
みんなの組合員活動 Vol.165

ともに育ち 学びあう活動—実践編

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を"むすび"ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！

2022年度の「お米の出前授業」がスタートしました

2010年、「バケツ稻」の提供をきっかけに始まった「お米の出前授業」。苗植えから稲刈り、脱穀、粉摺りを体験し、お米について学べると好評です。5月～6月にかけて都内の小学校がお米の授業と苗植えを体験。その様子をお伝えします。



■出前授業を152校で実施

「バケツ稻」を、配送センターが近隣の小学校に贈呈することから始まった、お米の出前授業。2010年に江戸川区の小学校で最初の出前授業が開催され、2012年からは、パルシステム東京として取り組むことになり、年々申し込み数が増加しています。近年ではコロナ禍の影響があったものの多数の小学校が、5年生社会科の稻作の授業で、「お米の出前授業」を利用しています。

授業で植える苗は、産直産地のJAつくば市谷田部が育苗したもので、カタログでもおなじみの「茨城こしひかり」の苗。子どもたちに品種を伝えると、「こしひかり！ すごい！」の声があがりました。

■お米ができるまでを学ぶ

今年度は、5月6日を皮切りに、152校でお米の出前授業を実施しました（6月8日現在）。5年生全員が集合し、まずはA6サイズに折りたたまれた、“お米のポケットブック”を見ながら、お米ができるまでの流れを学びます。種糲の消毒には薬剤は使わず、温湯消毒していること。田んぼに生えた雑草は、除草剤に頼



授業の講師は活動長が担当。新任の活動長については、最初の授業で産直推進課の職員が講師を務め、その授業を実地体験します



らず、放した合鴨に食べてもらうこと。夏場には田んぼの水を抜き、稻が根を伸ばすようにすること。稻刈り後、栄養が穂先までいきわたるように、はさ掛けすることを学習しました。

苗植え体験では、子どもたちは、代かき作業に大奮闘！泥んこになって混ぜていました。田植えが大変な作業だと知り、毎日食べているお米が、手間暇かけて作られていることを実感し、大切に食べることや、もう一杯食べることで自給率アップにつながることも学びました。

お米の出前授業の講師を経験して

■根川活動長(東村山ヤンタ=)

とても印象的だったのが、子どもたちの真剣な顔です。私の話を聞く子どもたちの表情に、緊張より、授業をしつかりやるんだ!と気持ちが変わりました。

バケツでの土づくりでは、一人に集中せず、全体を見るように心がけました。また、土と水をよく混ぜる代かき作業では、手が泥だらけになりながら笑っていましたが、いざ苗を植える時は、まっすぐ植えろ、幅

や高さも考えている
る真剣な子どもたちに感動しました。
子どもたちに伝えたいのは、農家さんは田んぼや畑を



家族のように考え、お米を我が子のように大切に育てていること。その大変さや、努力、楽しさを伝えながら、いつもと違う特別授業をしていきたいと思っていま

■渡邊活動長(板橋センター)

私の授業を聞く子どもたちの姿を見て、しっかりと伝えていかなくてはと気持ちが引き締まりました。学習では「コメが【米】この漢字になった訳は?」など自作のクイズを作り、飽きない内容を意識しました。

苗植えの授業では、私も土を触り子どもたちと一緒に苗植えをすることで、一体感がもてたと思います。質問や感想もしっかりと発言してくれて、とても感動しました。お米のことを知ってもらい、今以上にお米を食べてもらいたいですが、それぞれの食べ物にあるストーリーに興味関心をもち、食べることへの楽しみに繋げてほしいと思いました。



第一小学校にて
5/12
板橋区立
立心米
蓮が作
根けり

■平野活動長(多摩センター)

初日はとても緊張し、肩に力が入りすぎているなど実感するくらいとても不安なスタートでした。

その後の授業では、伝えることも大切ですが、何より楽しい授業ができればと考え進めるようにしました。子どもたちには、泥だらけになりながら実際に苗植えを体験することで、お米を育てる大変さや楽しさを伝えていければと思っています。子どもたちのキラキラ

■秋山活動長(江戸川センター)

実際に体験することの方が、より楽しく子どもたちが生き生きしていたので、説明はほどほどにしています。また、体験学習なので、多少の汚れは気にしない子どもたちの姿に、新たな発見がありました。

私自身、座学の知識もつき、印象に残る時間にしたいと回数を重ねるたびに思っています。一方的な説明ではなく質疑応答形式で、多くの子どもたちに答えてもらえるよう、挙手ではなく大きな声で答えをランダムに言ってもらっています。今回のような経験は将来役に立つと思うので、感じ方が変わるのはもちろん年代で経験してほしいですね。



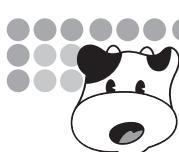
代かきで楽しそうに泥んこになっている子どもたち。ふだんは泥遊びはやってないのかな?とも感じました(5/12葛飾区立川端小学校にて)

した笑顔をたくさん引き出して、楽しい授業をしていきたいですね。

授業を聞いているだけでなく、全員が参加できるように「ご飯好きな人?」「パルシステム知っている人?」と簡単な質問を投げかけて手を挙げてもらうようにしています。



子どもたちと一緒に、泥まみれ覚悟で苗植えをするのが楽しいです(5/17稲城市立城山小学校にて)



新委員会紹介

おいしくたのしく くらす委員会

くらし分野別委員会

「企画に参加して得たことを、家に帰っても継続できるような企画をやりたいです。みんなで暮らしに役立つ情報や、知恵を出し合いながら活動していくんですね」と話す委員長。食の安全・安心だけでなく、福祉や平和、環境など幅広い分野の知識を深め、広めたいと立ち上げました。みんなで分担、協力し合って企画開催していくとも話してくれました。(5/16 取材)



2022年度に立ち上がった委員会を紹介します

暮らしつく委員会

くらし分野別委員会

港センターで開催した、ふやすひろげる企画に参加して、意気投合したメンバーで「サークル活動」をしていました。サークルとしてできることはやりつくした感もあり、もっと活動の範囲を広げたいと、知り合いに声をかけ委員会を立ち上げました。「企画を通してワンランクアップした暮らしができるような活動をしていきたいですね」と話す委員長。今年度は、企画を通して仲間作りができるとも話してくれました。(5/26 取材)



取材の都合により、委員長とメンバーでの写真撮影となりました